

言語能力を統合して解決する問題②（第3学年）

報告者 松尾達也

1 第3学年における問題出題の意図

問題の大きな流れとしては、「さが小学校」でみられる虫の図鑑を作ろうとしている花子さんが、捕まえる前にどんな虫がいるか予想（資料A）し、実際に虫を捕まえ（資料B）、図鑑を作るために、他の虫を捕まえた友達と相談（資料C）をしているというものである。なお資料Cには花子さんが捕まえたけど見かけた虫、太一さんが捕まえた虫、さくらさんがいると予想した虫が書かれている。

- 問題1は、資料（B）には花子さんが捕まえた6種類の虫が示されている。設問には6種類の中から5種類の虫の名前が示されており、残りの1種類の虫の名前を答える問題である。解答者に求められる力は、①設問と資料（B）を正しく結びつける力と②資料（B）に示されている虫と設問に示されている虫を対応させる力である。
 - 問題2は、資料（A）には花子さんが予想した虫と、別の資料（B）に実際に捕まえた虫の種類が示されている二つの資料を活用する。設問は、予想の資料と、捕まえた資料に共通する虫を選び出す問題である。回答者に求められる力は、①設問と資料（A・B）を正しく選び出し結びつける力、②二つの資料（A・B）を比較し共通している虫の種類を選び出す力である。
 - 問題3は、花子さんが図鑑を作るために、虫の名前を10種類挙げているが、その10種類を図鑑に乗せても良いかという是非と理由を記述式で答える問題である。回答するためには、実際に捕まえた種類の資料（B）と、捕まえてはいないが見かけたり、友達から聞いたりした虫の資料（C）を使用しなくてはならない。なお、花子さんが挙げている10種類の虫の中には、実際に捕まえていないカブトムシが含まれていることから、解答としては「よくない」となり、理由としては「確認できていないカブトムシは図鑑に載せられないから」となる。解答者に求められる力は、①図鑑を作るという問題全体を理解する力、②二つの資料（B・C）を正しく選び出す力、③資料（C）の「クワガタムシがいたんだ。なら、カブトムシもいるといいね」というさくらさんのコメントから、カブトムシを図鑑に乗せることができないことを判断する力である。
 - 問題4は、「山、川で、見られるテントウムシの種類が違うかも」という花子さんの予想が、どういう調べ方をすると正しいと言えるかを記述で答える問題である。正答例としては「実際に行って観察したり、捕まえたりする」「図鑑等で調べてみる」である。解答者に求められる力としては、生活経験や学習経験をもとにして、問題の解決に必要なプロセスを選び出す力である。
- 上記の意図を含めて、「各学年の言語能力到達度目標」と関連付けながら結果を分析していく。

2 調査の結果及び考察

表1 R4年度（6月→11月）とR3年度（6月→2月）における各問題の正答率（%）

年度\問題		1	2	3	4
R4	○	94.8→94.8	39.6→31.3	16.7→20.8	81.3→93.8△
	△			16.7→13.5	2.1→1.0
	×	5.2→5.2	60.4→68.8	66.7→65.6	16.7→5.2▽
	無	0.0→0.0	0.0→0.0	0.0→0.0	0.0→0.0
R3 (昨年度 3年生)	○	86.8→81.3	60.4→59.3	69.2→59.3	8.8→31.9▲
	△			12.1→12.1	86.8→49.5▼
	×	13.2→17.5	39.6→40.7	17.6→28.6△	3.3→18.7△
	無	0.0→0.0	0.0→0.0	1.1→0.0	1.1→0.0

※6月より10%以上差異がある値は△（増加）か▽（減少）、20%以上なら▲（増加）か▼（減少）

- 本年度内での比較。設問2は正答率が10%下がっている。その理由を児童に尋ねてみたが、設問を正しく理解していない児童が多くいるようだった。資料（A・B）を比較するのではなく、問題3の図鑑の10種類と資料Aを比較している児童が多くいることが分かった。また、問題を深読みしすぎているのかもしれない。設問を正しく読解する力に課題があるのかもしれない。設問4は正答率が13%程度上がっている。設問4については、11月は総合的な学習がだいぶ進んでおり、これまでの学習経験から、自らの疑問や課題を解決する方法を獲得してきたからだと考えられる。鯨っ子学習における試行錯誤する学びの成果であると考えられる。
- R3年度とR4年度の比較。設問2はR3年度が6月も11月も高い。設問4はR4年度が6月も11月も高い。年度が変わり担任が変わることによって、指導の重点の置きようが変わっていることが理由の一つと考えられる。